

県立学校におけるクマへの対応について

令和7年12月23日一部追記
宮 城 県 教 育 委 員 会

1. クマとの遭遇の予防(未然防止)

児童生徒	<input type="checkbox"/> 可能な限り単独行動を避けて登下校する。 <input type="checkbox"/> 音で知らせる。 ・クマ鈴、笛、空のペットボトルなどを携帯し、人の存在を知らせる。 <input type="checkbox"/> 危険な時間帯・場所の回避 ・クマの活動が活発な早朝や夕方の行動は特に注意する。 ・藪や沢沿いなど、クマが潜みやすい場所には近づかない。
学 校	<input type="checkbox"/> クマの誘引物を除去 ・ゴミ集積所には鍵をかけフタを閉めるなど、適切に管理する。 ・敷地内の実のなる木を適切に管理し、必要に応じて伐採する。 <input type="checkbox"/> 見通しの確保 ・校舎周辺の雑草を刈り払い、見通しを良くしてクマの隠れ場所をなくす。

2. クマが出没した際の緊急対応

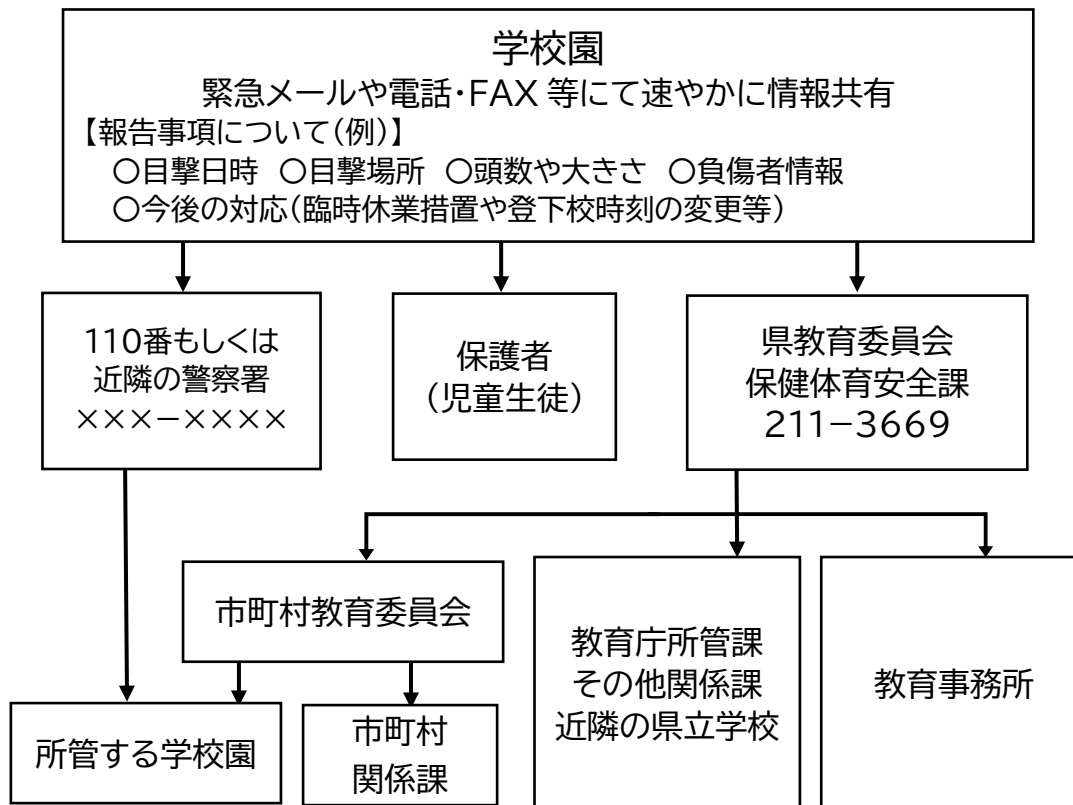
- (1) 学校園付近に出没した場合 ※学校敷地内や児童生徒が通う通学路を含む。
 (2) 学校からは離れているが、人的な被害が発生し、その発生場所と河川等(クマの移動想定ルート)でつながっている場合。

登下校時	<input type="checkbox"/> 職員間の情報共有・対応協議 ・登下校時刻の変更や臨時休業措置の判断 <input type="checkbox"/> 関係機関への連絡(県教育委員会等) ※3. 連絡フロー参照 <input type="checkbox"/> 通学時の安全確保 ・警察へのパトロールの依頼 <input type="checkbox"/> 保護者及び生徒への連絡(緊急メール) ・出没情報の正確な伝達(目撃した場所や、クマの頭数、大きさ等) ・登下校時の具体的な注意事項を伝達(複数で行動、音を出すなど) ・必要に応じて引き渡しや付き添い、見守り等の依頼
在 校 時	<input type="checkbox"/> 職員間の情報共有・対応協議 ・授業時間の短縮や部活動等放課後活動の切り上げ <input type="checkbox"/> 児童生徒等の安全確保 ・児童生徒の所在確認 ・屋内退避 ・校舎一階の施錠(必要に応じて窓も施錠) ・屋外での活動制限(体育、休み時間、部活動等) <input type="checkbox"/> 関係機関への連絡(警察・県教育委員会等) ※3. 連絡フロー参照 <input type="checkbox"/> 保護者への連絡(緊急メールで連絡)※登下校時と同様の対応
継続対応	<input type="checkbox"/> 職員間の情報共有・対応協議 <input type="checkbox"/> 保護者及び生徒への連絡(緊急メール) ・最新情報の更新 ・翌日の登校方法 ・休日等屋外での過ごし方の指導 ・オンライン授業等の学習保障 <input type="checkbox"/> 学校での環境整備と誘引物除去(ゴミ管理、校内外の点検、草刈りなど) ※安全が確保されるまで上記の対応を継続する。

(3) 校外での活動場所に出没した場合

→該当場所での活動は原則中止。人命を最優先に考慮して判断する。

3. 学校園付近にクマが出没した場合の緊急連絡フロー



<時間外の場合>

各学校からメール配信 ※開封確認(既読)機能を活用し、確認漏れの無いようにする。
例)タイトル【クマ情報】

〇〇高校です。昨夜△△時ごろ、××地区3丁目地内において、体長約1mの母グマと、体長約0.5mの子グマ2頭の見撃情報がありました。警察には既に登校時における学校周辺のパトロールを依頼しましたが、登校時はクマ鈴など音が鳴るものを携帯し、十分注意して登校するようお願いします。

4. 各学校での取組事例

☆各校における平時の対応例

○保護者や関係機関と、クマが出没した際の対応を協議しておく。

- ・児童生徒への安全指導(下記参照)とクマ遭遇時の対処訓練。
- ・関係機関との対応フロー(上記参照)と警察等関係機関へのパトロール等の依頼。
- ・保護者への情報提供と注意喚起。
- ・登下校時の対応→引き渡し、保護者送迎、集団下校など。
- ・外遊びや外での体育、部活動の対応→状況に応じて室内の活動に切り替える。

○校地内にクマを近付けないための対策を講じる。

- ・実のなる樹木等は早めに収穫。
- ・朝や夕方、外での活動の際に音楽をかける等、クマが嫌がる音を出す。
- ・クマのエサになるようなものを放置しない。

☆児童生徒等への指導例

○自分の身を守り、クマを寄せ付けないための方策

- ・登下校時に音の出るものを携行する。(クマ鈴、自転車のベル等)
- ・できるだけ1人で行動せず、友達と一緒に行動する。
- ・クマが近くにいるサイン(足跡やフンなど)を見つけたら、その場を離れ、安全を確認した後、学校や警察に連絡する。

○クマに出会った際の対処法

- ・ゆっくりと後ずさりして逃げる。
- ・カバン等の持ち物を置いて、クマが気をとられている隙に逃げる。
- ・大声で叫ばない。(クマが興奮する)
- ・石や棒を投げつけない。(クマが興奮する)
- ・商店や公共施設等に逃げ込み、保護してもらう。

○クマに襲われそうになった際の対処法

- ・両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる姿勢をとる。(頭や顔を守る)

<クマ対応物品例>

- クマ撃退スプレー □クマ回避シート □爆竹(ロケット花火) □クマホーン
- ホイッスル □ハンドマイク

5. 指導参考資料

(1) クマ出没情報の児童生徒等への周知徹底について

① 学校近隣にクマが出没した情報を入手した際は、児童生徒等への情報提供と注意喚起を行うこと。

・令和7年度クマ目撃等情報(宮城県自然保護課野生生物保護班HP)

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/r7kuma.html>



② 休日においても、学校近隣にクマが出没した情報を入手した際は、部活動で登下校する場合も考慮し、保護者メール等を活用するなど注意喚起を行うこと。

(2) クマ出没時の指導について

クマからの被害を回避するために、自宅付近にクマが出没した情報を入手した際には、むやみに出歩かないなどの対応のほか、以下を参考に指導すること。

【参考資料等】

○ツキノワグマの被害に遭わないために(宮城県自然保護課野生生物保護班HP)

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/kumatyuui.html>



○ツキノワグマ人身被害防止強化期間チラシ(宮城県自然保護課 PDF:316KB)

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/59297/kyoukakikanchirasi.pdf>



○「クマ類の出没対応マニュアルー改訂版ー(環境省自然環境局)」

Ⅲ クマ類に遭遇した際にとるべき行動(P72から73参照)

<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/index.html>



(3) ツキノワグマの被害に遭わないために

自然保護課野生生物保護班 HP(掲載日:2025 年 7 月 7 日)より一部抜粋

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/kumatyuui.html>

ツキノワグマとは？

- ・体長 100～160 センチ
- ・体重 50～130 キログラム
- ・聴力・嗅覚 人間よりずっと良い。
- ・走る速度 人間よりずっと速い。
- ・運動能力 水泳・木登りが得意。
- ・食物 ブナの実、ドングリ類などの木の実、山菜、昆虫等
- ・生態 冬期間冬ごもりを行い、雪解け頃に目覚めて活動を始める。
行動圏は 40 キロ平方メートル(通常オスの場合)と言われているが、食べ物の豊凶により異なる。
通常 3～4 歳で繁殖可能となり、1 回に 1～3 匹の子グマを産む。子グマは 2 年ほどは母グマと一緒に行動する。行動時間帯は朝夕、黎明薄暮時。
- ・生息数 宮城県内の生息個体数は 2,783 頭と推定されている。(令和 6 年度調査結果)

クマに会わないためには？

- ・目撃情報には十分注意しましょう。
- ・クマに自分の存在を知らせましょう。そのためには、クマ鈴を携帯して音を鳴らす、皆でしゃべるなどしながら歩きましょう。クマ鈴はアウトドアショップ等で販売されています。
- ・クマが人間の存在に気がつかず、バツリと出会ってしまう状況が一番危険です。
- ・クマの活動時間帯は、朝夕・黎明薄暮時です。この時間帯での行動は特に注意してください。
(天気が悪くて薄暗い日は、昼間も活動することがあります。)
- ・霧や風のある日はクマも注意力が散漫になります。注意して行動してください。
- ・最近のクマはゴミ等を食えることがあります。ゴミを食べるようになったクマは「人間は食べ物を持っている」と学習し、意識的に人間に近づくようになり、周辺住民を危険な状態に陥れることになります。

万一クマに会ってしまったら

- ・大声をあげたり、石や棒等を投げつけることは、クマをいたずらに興奮させるだけです。まず、落ち着いてください。
- ・クマとの距離を保つことで、お互いの興奮を静める効果があります。慌てて逃げ出したりせず、クマに背中を見せずに向き合ったまま、ゆっくりと後退してください。
- ・子グマには近くに必ず母グマがいます。母グマは子グマに危害を加える可能性のあるものに攻撃を仕掛けます。

もし、クマが攻撃してきたら

- ・腹這いになり、両手で首の後ろをガードします。リュックを背負っていれば背中を守られ、一番大事な頭部や首部が守られます。
- ・クマの攻撃は、多くは最初の一撃で終わり、その後、人間から離れていきます。

※ここに書いてある方法のとおりによれば必ず大丈夫とは言えません。研究や経験からとりあえず有効であるという方法です。